

12月下旬から1月の寒害・雪害対策

I 寒害対策

1 さつまいも

(1) 事前対策

- ア 苗床及び超早掘のハウス，トンネル栽培は密閉し，保温に努める。
- イ 電熱温床のない育苗ハウスや超早掘り（12月～1月植付）では，二重被覆や補助加温器具等を利用し，保温に努める。
- ウ 冬季晴天時の夜間には，放射冷却によって外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため，注意する。
- エ 貯蔵庫は地上，半地下式とも換気口をふさぐ。

(2) 事後対策

- ア ハウス内が高湿・多湿とならないよう，適切に換気する。

2 野菜

(1) 事前対策

- ア 露地品目では，事前に寒冷紗や不織布等のべた掛け資材で被覆し，寒害を防止する。また，防風網等は，冷気が滞留しないように裾を空けておく。豆類では不織布等の水平張りで寒害を防止する。
- イ 施設品目では，暖房機やダクト，二重被覆，二重カーテンの状況を再度確認しておく。また，ハウス内の隙間対策を徹底し，気密性や保温効果を高める。なお，生育初期のものはトンネル被覆を行う。
- ウ 冬季晴天時の夜間には，放射冷却によって外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため，注意する。

(2) 事後対策

- ア 豆類では，寒害により出荷できなくなった莢はすみやかに摘莢し，草勢の回復を図る。
- イ ハウス内でトンネル被覆をした場合は，翌朝，トンネル内が高湿にならないように除去する。

3 花き

(1) 事前対策

- ア 露地品目では，事前に寒冷紗や不織布等のべた掛け資材で被覆し，寒害を防止する。また，防風網等は，冷気が滞留しないように裾を空けておく。
- イ 施設品目では，暖房機やダクト，二重被覆，二重カーテンの状況を再度確認しておく。また，ハウス内の隙間対策を徹底し，気密性や保温効果を高める。さらに，

- 日中の換気を徹底し、茎葉の軟弱化による降霜時の被害発生を抑える。
- ウ 無加温ハウスでは、二重被覆での保温やストーブ等で補助的に加温する。
 - エ 冬季晴天時の夜間には、放射冷却によって外気よりもハウス内の温度が下がる場合があるため、注意する。

(2) 事後対策

- ア 寒害により草勢が弱っている場合は、草勢の回復や病害予防のため液肥や殺菌剤を散布する。

4 果 樹

(1) 事前対策

- ア 防風樹（垣）は下枝を刈り払って、冷気が溜まるのを防ぐ。
- イ 収穫可能な果実は早めに収穫する。
- ウ 強い寒害が予想される場合は、樹冠を不織布やこもで覆う。
- エ 無加温ハウスでは、二重被覆での保温やストーブ等で補助的に加温する。
- オ ハウス内の隙間対策を徹底し、気密性や保温効果を高める。
- カ ビワでは、寒害軽減のためにアルミ袋を使用したり、樹高が低い園では寒冷紗等で被覆する。
- キ マンゴーでは、ハウス内温度が8℃以下にならないように加温する。

(2) 事後対策

- ア カンキツ等で落葉の多い樹では、枝の枯れ込みが予想されるので、樹勢を見ながら間引き主体の軽いせん定を行う。
- イ 寒害を受けた果実は直ちに収穫し、十分な予措期間をおいて、被害のない健全な果実だけを出荷する。
- ウ 落葉しているなど樹勢の弱っている樹では、冬期のマシン油乳剤の散布は控える。
- エ ビワで寒害を受けた場合、利用できる孫花等があれば、寒害の恐れがなくなってから摘蕾・摘果を行う。
- オ 積雪があった場合は、樹上に積もった雪はなるべく早く振り落とし、果実のヤケ、枝折れを防ぐ。

5 飼料作物

- イタリアンライグラスは、厳寒期の刈り取りを一時控えるか高刈りする。

6 共通事項

- 屋外のポンプ施設は凍結しないように防寒対策を行う。

II 雪害対策

1 共通事項

- (1) 降雪時の農地・農業用施設の見回りは、次の点に留意しつつ、作業者の安全確保を最優先にして対策の徹底を図る。
- ア 見回りをする際には一人では行かない。
 - イ 滑りにくい靴を履く。
 - ウ 道路・ほ場周辺で、隣接する用水路、落差等がある場所には近づかない。
 - エ 倒壊の恐れのあるハウスや畜舎などの施設には近づかない。
 - オ ハウス、畜舎等の雪下ろしを行う際は、ヘルメットをかぶり、滑りにくい履物を履くなどし、複数人で作業する。
 - カ 悪天候時には作業を行わない。

2 ハウス施設

積雪が予想される場合は、ハウスの倒壊を防ぐために下記の事前対策を行う。

(1) 事前対策

- ア ハウスバンドや天井ビニルは、たるみ等がないようにしっかりと張る。
- イ 屋根被覆資材の表面に、雪の滑落を妨げるような突出物がないかを事前に点検する。特に、防風ネットや外部遮光資材等は必ず撤去する。
また、連棟ハウスの場合は、谷部に雪が積もるので補強を徹底する。
- ウ 加温ハウスでは、暖房機の燃油残量を確認し、燃油を十分に確保する。また、暖房機や電源、配線等についても正常に作動するか確認する。降雪時は内部被覆（二重カーテン）を開放するなど、可能な範囲でビニル直下の室温を高めることで、天井に積もった雪の滑落を促す。
- エ 無加温ハウスでは、ビニルの破損箇所や隙間をふさぎ、ハウスを補強するとともに補助加温を行うなどして、積雪による倒壊を防ぐ。
- オ 耐用年数が経過して老朽化したハウスにおいては、特に補強を徹底する。
- カ 降雪状況等を考慮し、場合によっては被覆資材を切断除去することで施設の倒壊を防ぐ。
- キ 雪解け水が滞水しないように、ハウス周辺の側溝・排水溝を整備しておく。

(2) 事後対策

- ア 積雪した場合は、速やかに雪おろしを行い、ビニルがたるむのを防ぐ。その際は、重みのバランスを考慮しながら雪を下ろす。
- イ ハウス施設の損傷やビニルの破損等がある場合は、すみやかに補修する。

3 茶

(1) 事前対策

- ア 積雪による枝の折損等の被害を防止するため、降雪前に摘採面に被覆資材等を直掛けする。

(2) 事後対策

ア 積雪した場合は、除雪、融雪後に寒風害を受け、被害を助長することがあるので、人為的な除雪や融雪などは行わずに、自然融雪を待つ。

イ 損傷を受けた枝条は切除し、摘採面が乱れた程度の園は融雪後に手直しをし、摘採面を整える。